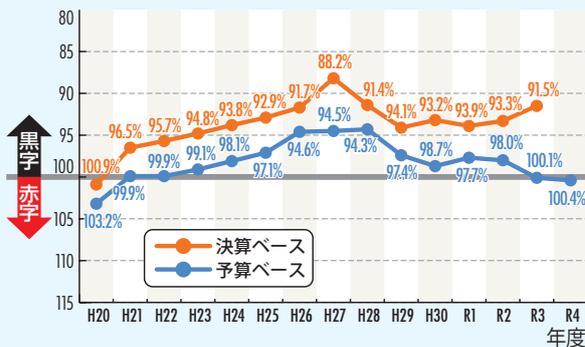


経常収支のバランス 経常収支比率

91.5%(-1.8ポイント)

扶助費を始めとする社会保障関係費や公債費(借入金の返済)などの歳出が増加した一方、市税や普通交付税などの歳入が増えたことにより、前年度から1.8ポイント改善しました。

家計に例えると、「毎月の給料で毎月の生活費が賄えているか?」を示しています(経常収支比率が100%を超えると、家計では赤字の状態です)。

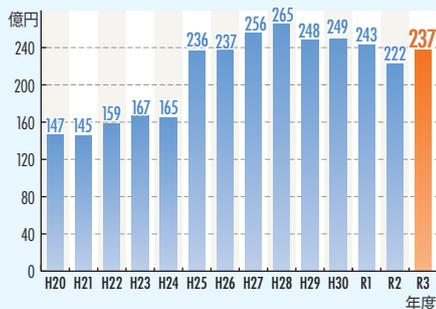


基金の状況 基金残高 (普通会計)

236億800万円(+14億4600万円、+6.5%)

大阪大学箕面キャンパス跡地の建物補償や小中一貫校「彩都の丘学園」の増築などに基金を活用した一方、北急基金などに積み立てを行った結果、基金残高は約14億円増加しました。

家計に例えると「貯金」です。

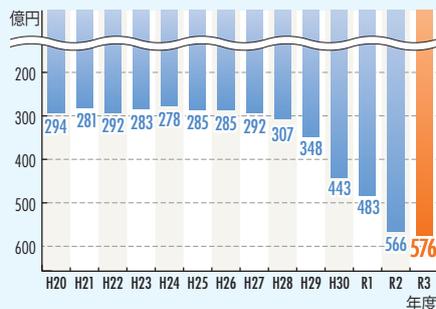


市債の状況 市債残高 (普通会計)

575億7600万円(+9億5400万円、+1.7%)

着実に返済を進める一方、北大阪急行線延伸線の新駅や新病院予定地の周辺整備、学校の増築など将来への投資を積極的に行ったことにより、市債残高は約10億円増加しました

家計に例えると「ローン」です。



箕面市の財政公表

圃財政経営室

☎724・6708 FAX723・2096

令和3(2021)年度決算は、8月31日から10月12日まで開かれた市議会定例会で審議の結果、適正であると認定を受けました。

令和3年度決算では、普通交付税などの歳入が増えたことにより経常収支比率は1.8ポイント改善しています。一方、市債残高の増加により将来負担比率^{*}は8.5ポイント悪化しています。

コロナ禍における物価高騰の影響もあり、行財政運営は引き続き楽観視できない状況ですが、令和3年2月に策定した「市新改革プラン」をもとに徹底した改革に取り組み、健全な行財政運営を確立していきます。

^{*}将来負担比率とは、家計に例えると「年収に対するローン残高など将来支払わなければならない額の割合」を示しています。

市の財政状況について分かりやすく「見える化」し、市ホームページ(QRコードからアクセス)で公開しています。ぜひご覧ください。



1月から 3歳6カ月児健診で 目の屈折検査を開始します!

園子どもすこやか室 ☎724・6768 FAX721・9907

子どもの目の機能は3歳頃までに急速に発達します。しかし、近視や遠視、乱視などの屈折異常があると、視力の正常な発達が妨げられ、弱視^{*}になる恐れがあります。実際、子どもの約50人に1人が弱視と言われています。

そこで箕面市では、**3歳6カ月児健診に目の屈折検査器具(スポットビジョンスクリーナー)**を導入し、**1月から検査を開始します**。子どもは目の見えにくさを自覚していないことが多く、また家族でも、そのことに気付けない場合が多くあります。早期に屈折異常を発見し、治療につなげるためにも、ぜひ3歳6カ月児健診を受診して目の屈折検査を受けましょう。

^{*}弱視とは、眼鏡やコンタクトレンズを使っても、十分な視力が得られない状態のことです。

目の屈折検査について、詳しくは市ホームページ(QRコードからアクセス)をご覧ください。

令和4年4月~12月の3歳6カ月児健診の対象児童で、目の屈折検査を希望する場合は、子どもすこやか室(☎724・6768)へお電話ください。



目の屈折検査とは...

スポットビジョンスクリーナーという器具を使い、目の屈折異常(近視・遠視・乱視など)を調べる検査です。1mほど離れた位置から器具を見つめてもらうだけの簡単な検査で、数秒で終了します。



イラスト:公益社団法人日本眼科医会『3歳児健診における視覚検査マニュアル』より